

Artist In Residence Program 2012 Report In NASU

name 大橋 春香

genre ガラス

date 2012.10.1 ~ 11.30

profile

- 2008 京都造形芸術大学美術工芸学科彫刻コース中退
2009 ポロシリケイトガラスの制作活動、販売を開始する
Glass works & hand made [blue planet] 主宰
2010 グループ展「PRISM2010」(栃木・J-Gallery)
2011 個展「blue planet EXHIBITION」(栃木・padparadscha)
長期展示「blue planet EXHIBITION」
(沖縄・WEST COAST)



▲滞在成果の作品 上から「cosmos02」、「榮」

大橋春香 ワークショップ報告

アート・ビオトープ那須 吉成太一

10月20日、21日の午前午後の4回開催され、合計6名が参加しました。パイレックスという素材により生み出される、ガラスのペンダントトップは、一朝一夕で習得できる技法ではありませんが、既に大橋さんの手によって制作されたガラス玉をバーナーワークで加工し、ペンダントトップに加工するというワークショップ（以下WS）。

「参加者が、簡単に美しい作品が作れるように…」という富田ディレクターとの打ち合わせから、“作家とコラボする”内容に調整され実施しました。

大橋さんは既に自分の工房『blue planet（ブループラネット）』主宰であり、ワークショップは手馴れているため、非常にクオリティの高いWSとなりました。

参加者は慣れない手つきのなか、大橋さんに細かな作業をフォローしていただきながら、カラフルなペンダント・トップを制作することができ、通常購入8000円程かかるガラスのパイレックスペンダントがWS代込みで4500円＋税で行えるため、大変リーズナブルな企画でもあり、お客様は大変満足されていた様子でした。

ワークショップを終えて

大橋春香

先日、行わせていただいたガラスのWSはとても楽しい2日間になりました。普段、個人的にしているWSとはまた異なる空間で、参加してくれた方々もガラスワークが未経験の方がほとんどだったので新鮮な気持ちで教えることができました。

参加してくれた方々もガラスを溶かす難しさや伸ばすタイミングなどガラスの特性を楽しみながら作ってくれたと思います。おかげさまで、自分も楽しい気持ちで教えることができました。

今回参加してくれた方々とも、これもなにかの縁で今後も繋がっていられたらいいなと願っております。

この度、このような機会をいただけたことに感謝します。

ありがとうございました。

ART BIOTOP

アーティスト・イン・レジデンス (AIR) プログラム2012

ワークショップ開催

① 10.20 sat

② 10.21 sun

AIR (Artist in Residence) Program 2012
GLASS WORKSHOP in Art Biotop NASU

AIRプログラム作家——ガラス

大橋春香

ワークショップ

バーナーワークでネックレス・トップを作る



「ガラスと遊ぶ」をテーマに、
より多くの人にガラスの素晴らしさと
溶かしたときの楽しさを
体験してもらいたいです。
目まぐるしく変化する時代、
普段の生活を忘れて夢幻の世界を堪能し、
少しでもお楽しみいただけたら幸いです。
(大橋春香)

大橋春香 Ohashi Haruka

栃木県生まれ
2009 京都造形芸術大学美術工芸科彫刻コース中退
2010 ガラス工房「blue planet」設立、主宰
2011 個展「blue planet」(栃木・宇都宮「ハバラシア」)
2010よりグループ展多数参加

開催日 1回目/2012年10月20日(土)
2回目/2012年10月21日(日)
時間 午前の部/10:00~12:00
午後の部/14:00~16:00
対象 小学生以上 親子参加大歓迎
※小学校低学年は保護者同伴をお願いします
※片手が動く方なら障害がある方でも参加できます
参加費 4,725円(材料費・税込)

※作品は約1時間後にお持ち帰り頂けます。
※定員になり次第締め切りとさせていただきます。(各回5名)

○大橋春香さんのアート・ビオトープ那須 滞在期間

2012.10.1—11.30

期間中は、おにもアート・ビオトープ那須のガラススタジオで
創作活動を行います。お気軽に遊びに来てください。

お問合せ
お申込み

アート・ビオトープ那須 ☎ 0287-78-7833

栃木県那須郡那須町高久乙道上2294-3
www.artbiotop.jp



▲滞在中のワークショップや創作活動等の様子

AIR プログラムを終了して

大橋 春香

歴史と自然溢れる場所、那須の地にて2012年10月から11月の2ヶ月間 AB 那須様で滞在制作をさせていただきました。普段の制作環境では実践できないことを ABT 様でやらせていただき、自分の中で過去最高の大作を5点寄贈させていただきました。

今回制作させていただいた中の一点「peaceful death」は、試作の段階では失敗して割れてしまいましたが、ガラス工房のスタッフと色々話し合ったりアドバイスをいただいて本番では割れることなくキルン（窯）から取り出すことが出来ました。

作品に対する反省点や改善点も多く、今回の AIR ではガラスの特性の再発見、再確認が改めて見つかることができました。ガラスと向き合えた日々を送り、つくづくガラスは私にとって大切な存在だと再確認することもできました。

普段は、日々一人で制作に励んでおりますが、AIR 期間中は ABN ガラス工房スタッフたちとガラスの情報交換を多く出来たのでとても楽しい刺激的な毎日でした。

制作時は、多くのお客様が見学に来てくださり私の作品にご興味を持っていただいて楽しいコミュニケーションの時間を送らせていただきました。

お客様と対話する機会は、自分で店舗を営んでいない限りなかなかない機会なので、AIR は私にとって色々考えさせてくれた場となりました。制作以外の時間も、那須の素敵な場所やお店に ABN スタッフたちが案内してくれて楽しいリフレッシュの時間を送らせていただきました。

最後に、この場をお借りしてガラス工房スタッフ・陶芸工房スタッフ・アートビオトープ那須・二期倶楽部のみなさまに感謝の気持ちを込めて。

2ヶ月間、ありがとうございました。



▲滞在成果の作品「peacefulDeath」

AIR2012 大橋春香によせて

AIR ディレクター 富田勝彦

4年目を迎えましたNPO 法人アート・ピオトープ主催「アーティスト・イン・レジデンス 2012 公募プログラム」。今年、那須に滞在した大橋女史は、アート・ピオトープ那須で3人目のガラス作家で、同じ栃木県鹿沼出身です。

工業高校のインテリアデザイン科から京都造形芸術大学美術工芸科彫刻コースに進みました。京都を選んだのも、日本の伝統工芸に惹かれてのことと察します。大橋はアメリカ・オレゴン州で発祥した「ボロシリケイト・ガラス」を材料として、「バーナーワーク」技法で創作しています。しかし、本場の作家作品は大味だそうで、それとは違う大橋の繊細なアクセサリー作品から京都に惹かれた理由が伺えます。

大学で2年間の基礎教育を終え中退し、地元でガラス工房「glass works & hand made BLUE PLANET」を立ち上げ主宰してきました。工芸作家の多くは、自身の工房を立ち上げ創作しています。しかし、設備の充実にはなかなか難しいものがあるようです。大橋が今プログラムに参加したのも「設備の整った環境で、創作表現の幅を広げたい」というものでした。

「美術大学では“創作活動を生業としていくには、どうすればいいのか!?”を教えてくれない。」(村上隆著「芸術起業論」より)と言われます。そんな中、自身の生き方を早々に決め、道を開いてきた大橋は「とりあえず大学に行って、卒業して……」と考える若者とは違い、これまでワークショップ開催や作品販売を生業としてきました。

海外でのフィールドワーク経験から多くを学び、“人間力”を身に付けた成果でしょう。多くの先達造形作家が行ってきた方法を踏襲しながら、海外で自身のアイデンティティを再確認する。そんな大橋は、今プログラム終了後、インドに渡るそうです。那須での経験を活かし、世界で感じたイメージを作品にする……日本人ならではの繊細なガラス作品にする。そんな大橋が、より一層、表現豊かな作品を創ってくれることが楽しみでなりません。



▲滞在成果の作品 上から「宇宙の果て」、「cosmos1」